

米国：実質GDP（2017年7-9月期、速報値） —GDP成長率は3%台を維持、消費は底堅く推移—

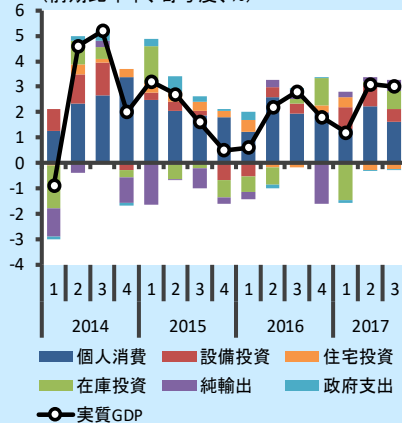
MRI Daily Economic Points October 31, 2017

図表1 実質GDP 図表2 実質GDPの項目別寄与度

(前期比年率、%)	2016		2017		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
実質GDP	2.8	1.8	1.2	3.1	3.0
個人消費	2.8	2.9	1.9	3.3	2.4
設備投資	3.4	0.2	7.2	6.7	3.9
住宅投資	▲4.5	7.1	11.1	▲7.3	▲6.0
在庫投資(寄与度)	0.2	1.1	▲1.5	0.1	0.7
政府支出	0.5	0.2	▲0.6	▲0.2	▲0.1
純輸出(寄与度)	0.4	▲1.6	0.2	0.2	0.4
輸出	6.4	▲3.8	7.3	3.5	2.3
輸入(控除)	2.7	8.1	4.3	1.5	▲0.8

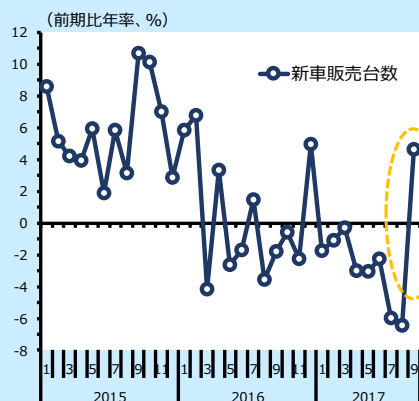
出所：米国商務省

(前期比年率、寄与度、%)



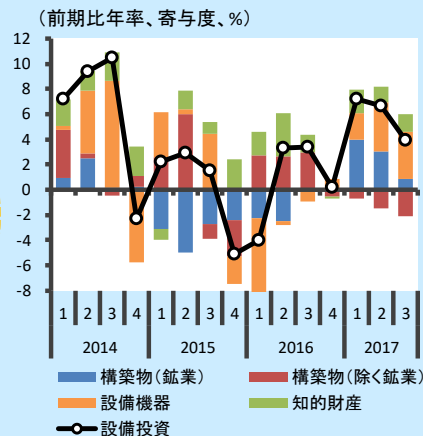
出所：米国商務省

図表3 新車販売台数



出所：米国商務省

図表4 設備投資の要因分解



出所：米国商務省

評価ポイント

今回の結果

- 2017年7-9月期(速報値)の米国実質GDP成長率(前期比年率)は+3.0%と前期(同+3.1%)と同程度の伸びを維持した(図表1、2)。
- 7-9月期を詳しくみると、個人消費は、同+2.4%と前期(同+3.3%)から伸び率が低下したものの、①雇用環境の改善、②高水準が続く消費者マインド、③株高の資産効果を背景に、底堅く推移している。また、ハリケーン被害による買い替え需要が、自動車関連の消費を下支えした(図表3)。
- 設備投資は、同+3.9%と前期(同+6.7%)から伸びは低下したものの、6四半期連続で増加した。設備機器への投資は同+8.6%と、4四半期連続のプラスを記録し、全体を押し上げた(図表4)。一方で、住宅投資が同▲6.0%と2四半期連続のマイナスだった。在庫投資は+0.7%の大きなプラスの寄与となった。
- 輸出は、同+2.3%と三四半期連続で増加。16年半ば以降、海外経済の持ち直しなどを背景に、輸出は底堅く推移。金融や情報技術などのサービス輸出の高い伸びに牽引され、純輸出は+0.4%のプラス寄与となった。

基調判断と今後の流れ

- 米国経済は緩やかな拡大を維持している。GDPの約7割を占める消費は底堅く推移。ハリケーン被害による消費の押し下げなどが懸念されたが、景気の下振れはみられていない。
- 先行きも消費主導による拡大傾向の維持を予想する。ただし、可処分所得の伸び悩みを鑑みると、17年の第2・第3四半期(前期比年率で平均+3%)に比べ、伸びは鈍化すると思われる。
- 下振れリスクとしては、①トランプ政権による税制改革における減税やインフラ投資の規模が、想定を下回る場合や、②FRBのバランスシート縮小過程で、長期金利の急激な上昇や、株価の下落が起きる場合には、消費や投資に悪影響が及ぶ。